

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	基本情報対策講座1
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	情報処理科	コース名	システム運用コース	開設期
対象年次	1年次	科目区分	選択	後期
単位数	3単位			時間数
教科書/教材	毎回資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			45時間
担当教員	山本 純士・清水 孝之・三島 秀三・藤本 海艶			授業形態
		実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア	
<b>学習目的</b>				
<p>学生が最新技術動向を業界のプロフェッショナルから聴講し、見識を広めることを目的とする。ITの技術は転換期にあるため、今後必要とされる人材は、知的好奇心を持ち、興味を持った事柄についてはその深層まで探究することができる人間である。さらに、多様性が求められる昨今、学生とは異なる環境にいる人との交流を持つことが多様な価値観を持つ他者への理解につながる。本講義では学生の知的好奇心を刺激すること、他者に対する想像力、発想力を養うことができる。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>基本情報技術者試験のテクノロジ分野(基礎理論、アルゴリズムとプログラミング、コンピュータ構成要素、システム構成要素、ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインタフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術)、マネジメント分野(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査)、ストラテジ分野(システム戦略、システム企画、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ、企業活動、法務)のうち過去に出題された問題を重点的に理解する。</p>				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	<p>基本情報技術者試験の必要性、午前試験免除制度を利用した場合としていない場合の合格率に明確な開きがあることを理解させる。各授業の前半では基本情報技術者試験の過去問を解き、自身の解答を学生が見直す。その後不正解が多かった問題について重点的に解説を行い、学生の理解を高める。早く過去問を解き終わった学生に対しては適宜質問を受け付け、個別に解説を行うことで全学生が効率的な学習を進められるように実施していく。</p>			
注意点	<p>過去問に対して学生が適当な解答をしてしまうと誤答者の多い問題が適切に選び出せずに解説の効果が薄くなるため、学生が一生懸命に過去問に取り組むことを重要視している。また、社会への移行を前提とした受講マナーで参加し、講義中の私語や受講態度などには厳しく対応する。(詳しくは初回の講義で説明する。)理由のない遅刻や欠席は認めない。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受講することができない。</p>			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	0%		
	課題	50%	過去問における取得点数の増減を基に評価する	
	レポート	0%		
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
	平常点	50%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
<b>授業計画(1回～15回)</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	ガイダンス	基本情報技術者試験の午前免除資格の必要性、今後の進め方を理解できる		
2回	過去問演習と演習の解説(1)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
3回	過去問演習と演習の解説(2)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
4回	過去問演習と演習の解説(3)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
5回	過去問演習と演習の解説(4)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
6回	過去問演習と演習の解説(5)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
7回	過去問演習と演習の解説(6)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
8回	過去問演習と演習の解説(7)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
9回	過去問演習と演習の解説(8)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
10回	過去問演習と演習の解説(9)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
11回	過去問演習と演習の解説(10)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
12回	過去問演習と演習の解説(11)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
13回	過去問演習と演習の解説(12)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
14回	過去問演習と演習の解説(13)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
15回	過去問演習と演習の解説(14)	過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		